

# 令和5年度 第1回JMATやまぐち災害医療研修会

と き 令和5年5月21日（日）13:00～15:30

ところ 山口県医師会6階 会議室

[報告：常任理事 上野 雄史]

JMATやまぐち災害医療研修会は、JMATやまぐちプロジェクトチーム、山口県医師会が企画し、年2回開催している。近年は、第1回はグループワーク形式、第2回は講演形式としている。本年度第1回となる今回は、昨年の研修会と同様に、テーマは「被災地JMAT初動シミュレーション」としてグループワーク形式で開催した。参加対象は、各都市医師会災害医療担当役員・事務職員等、各都市医師会が推薦する者（医師、ロジスティクス担当者）としていたが、山口県薬剤師会、山口県看護協会にも協力いただき、医師、看護師、薬剤師、放射線技師、救急救命士、理学療法士、臨床工学技士、臨床検査技師、作業療法士、事務職員と多職種にわたり、27名の参加をいただいた。ファシリテーターとして、JMATやまぐちプロジェクトチームから三田尻病院院長の豊田秀二先生をはじめ、11名の方々に出席いただいた。

## 事前学習

参加者には、研修当日までに、e-learningシステム（JMAT-e）による事前学習を必須事項として受講していただいた。内容は、昨年度と同様に、「本部機能（都道府県医師会）」、「山口県における災害医療の状況」、「災害医療用語」、「活動拠点本部（DMAT）」、「情報の共有」、「クロノロジー」、「J-SPEED」の項目で、10～45分の動画による講義を提供した。本年度は山口県公認心理師協会監修のもと、山口県医師会が作成した「災害医療支援者心のセルフケア」の項目を追加した。

## 会長挨拶

加藤会長 JMATやまぐちは平成26年に発足し、

毎年研修会を開催しており、令和3年から「被災地JMAT」をテーマにグループワーク形式の研修会を行っている。本日、研修を受けられて、地元が被災地になった時のことを想定し、平時から、地元の医師会との連携を深めていただきたい。

## グループワーク

参加者を、圏域を中心に5～6名の5グループにわけ、各グループに2名のファシリテーターを配置した。

大規模な地震と津波による自地域の被災時における活動を想定し、発災直後の行動からチームビルディング、指揮権委譲、実活動、そして撤収の5つの場面の設問を設けた。進行役の豊田先生が被災地JMATの位置づけを説明された後、グループで話し合いを開始した。設問ごとに代表グループが意見を発表し、豊田先生が解説され、その後、振り返りの時間を設け、理解を深めた。

グループワークに先立ち、豊田先生から「被災地JMAT」の活動の概念について説明がなされた。

## 要旨

東日本大震災の経験をもとに、自衛隊、DMAT、支援JMAT等、急性期からさまざまな団体が災害現場で活動する体制が整えられた。混乱の中で指揮命令システムを明確にするのが必要である。自地域が被災地となった際、発災直後、被災地において自衛隊やDMATが到着する前から、被災地で活動できる状態の医療関係者が行う自律的な災害医療活動の体制づくりをするのが必要である。

**【設問1】**

あなたは災害時に、被災地 JMAT として活動する意志がある方で、山口県〇〇市で働いている。

202X年11月14日(日曜日)、発災1日目。

午後2時、山口県〇〇市で震度6強の地震が発生。家屋倒壊も散見。約60分後に5m級の津波到達との情報あり。

まず、どのような行動をとるか？

(解説)

- ・自分の安全の確保、家族、職員の安全確認が必要。
- ・常日ごろから、地域のハザードマップ等を確認しておくことが必要である。
- ・避難は、時間があれば水平移動、時間がなければ垂直移動。
- ・津波は繰り返し何回も来る可能性があることを念頭に置かなければならない。

**【設問2】**

午後3時、1mの津波到達。〇〇市の中心部の一部浸水。家屋の流出はなく。主に床上浸水。

午後5時、津波が引いた。

高台に避難しており自身は無事。チームメンバーも近くに避難している。

次にどのような行動をとるか？

(解説)

- ・自宅や所属医療機関への経路の安全、家族や職員の安否、被害状況、ライフラインなどを確認する。
- ・被災地 JMAT として活動できるようであれば、チームメンバーと連絡を取り、所属郡市医師会に連絡を取る。
- ・「JMAT やまぐち活動マニュアル～被災地 JMAT 版～」に発災直後の行動、準備について記載してある。

**【設問3】**

所属医師会館に連絡したが応答はなく(日曜日発災の設定)、チームメンバーと医師会館に向かった。

午後7時、医師会長はまだ到着しておらず連絡もとれない。医師会館建物に被害はなく、電気は通じているが、水道は使えない。

まず、どのような行動をとるか？

(解説)

- ・医師会長不在のため、チームリーダーが指揮を執ることを宣言し、被災地 JMAT 立ち上げを山口県医師会に連絡する。チームリーダーは誰であるかということ、今後、医師会長等に代わる可能性があることも告げる。
- ・現メンバーで何ができそうであるかということも説明する。
- ・各関係機関(市役所、消防、警察、保健所等)にも連絡をとり、情報を共有する。(「JMAT やまぐち活動マニュアル 資料集」に各関係機関を掲載している。)
- ・コンタクトリストを作成し、関係機関から地域の被災状況の情報を収集する。
- ・活動に必要な資器材を準備する(各郡市医師会にどのようなものが準備されているかの確認も必要)。
- ・クロノロジーを作成し、組織図、コンタクトリストを明確にする。時間があれば内容を電子化し、日報にあげる。
- ・夜間の野外活動は極力控える。

**【設問4】**

発災2日目。

午前6時、医師会長が会館に到着し、情報、状況を伝え、医師会長に指揮を委ねた。

午前8時、山口県医師会から、DMAT 活動拠点本部が立ち上がった災害拠点病院に参集するよう指示あり。そこに山口県医師会から派遣された統括 JMAT もいる。

どのような行動をとるか。

無事到着したら、どうするか。

想定される活動は。

(解説)

○どのような行動をとるか。

- ・「JMAT やまぐち派遣可能チーム報告書」に記入し山口県医師会に FAX。事後報告でもよい。
- ・災害診療録、紙版 J-SPEED を準備する(マニュアルに掲載)。
- ・災害拠点病院までの経路の安全を確認する。
- ・必要資器材を確認する。

## ○活動拠点本部に到着したら

- ・本部あるいは統括 JMAT に挨拶し、救護班登録を行う。
- ・DMAT と密に連携し、情報を共有する。
- ・自チームがこれまでに得ている現場の情報を本部等に伝える。
- ・本部から被災状況などの情報を得る。EMIS が使えればそれから情報をとる。

## ○想定される活動

- ・救護所設営・運営、医療機関支援、避難所スクリーニング、避難所巡回診療等。
- ・地域によって状況が異なるので、地域の災害医療コーディネーターの指示を仰ぐ。
- ・専門外のことでもできること、手伝えることは積極的に行う。できないということを言わないようにする。

## ○1日の活動終了後

- ・本部に活動を報告し、夕方のミーティングに参加する。
- ・統括 JMAT、所属郡市医師会及び山口県医師会に活動内容を報告する。自分の安否報告も行う。
- ・活動日報を作成する。

## 【設問 5】

発災 4 日目。

DMAT 活動拠点本部は地域保健医療調整本部に変更され、県内外から支援 JMAT が参集してきた。被災地 JMAT は撤収して良いと言われた。

どのような行動をとるか。

(解説)

- ・撤収の意思を本部（地域保健医療調整本部）に伝える。
- ・活動の引き継ぎを支援 JMAT や DMAT に行う。
- ・本部に撤収の挨拶を行い、所属郡市医師会や山口県医師会に撤収の報告を行う。
- ・使用薬剤・資器材の費用請求の準備を行う。
- ・活動報告を山口県医師会に提出する。
- ・自院の診療再開の準備を行う。問題があれば所属医師会等に支援を要請。

設問を提示し、豊田先生が状況説明を行った後、グループディスカッションを行い、各グループで

ホワイトボードに意見をまとめ、代表グループの発表者が発表を行い、豊田先生が解説を行った後、ふりかえりの時間を設け、知識を深めた。各グループでファシリテーターの方々が上手く討論、発言を促され、和やかな雰囲気、各自、積極的に活発な意見交換が行われていた。今回は、同じ病院からのグループでの参加が多くみられ、被災の際、自院でどのように活動するか具体的な意見交換も活発に行われていた。災害発生時、地元の自治体、医療機関がどのような体制をとることになっているのか、どのようなマニュアルがあるのか、所属医師会がどのような行動をする取り決めになっているのか、災害対策にどのようなツールがあるのか、どのような器具が準備されているのか、具体的に知らないとの意見が多くみられ、平時において、確認、情報共有、訓練を行うことの重要性を再確認した。

各自、本研修で学んだこと、感じたことを持ち帰り、各地域に応じた災害医療体制の構築に役立てていただけたら幸いである。研修会を開催するにあたり、参加いただいた方々、協力いただきましたファシリテーターの先生方及び、今回から事前学習に協力いただいた山口県公認心理師協会会長で、宇部フロンティア大学の榎本先生に、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

県下唯一の医書出版協会特約店

医学書専門 井上書店  
看護学書

〒755-8566 宇部市南小串2丁目3-1(山口大学医学部横)

TEL 0836 (34) 3424 FAX 0836 (34) 3090

[ホームページアドレス] <http://www.mm-inoue.co.jp/mb>

新刊の試覧・山銀の自動振替をご利用下さい。